KOHJIN BIO
コージンバイオ株式会社

2025年3月期
通期決算説明資料

2025 / 6 / 11 コージンバイオ株式会社

証券コード：177A

KOHJIN BIO
コージンバイオ株式会社

AGENDA

01 エグゼクティブサマリー p.3

02 2025年3月期 決算概況 p.14

03 業績予想 p.20

04 成長戦略 p.23

05 Appendix p.32



©2025 All rights reserved., KOHJIN BIO.

01 エグゼクティブサマリー

©2025 All rights reserved., KOHJIN BIO.

再生医療に不可欠なインフラである「細胞培養用培地」の開発・製造技術の国内トップランナー

領域

成長市場である
再生医療市場

事業

再生医療・創薬の
インフラである
「培地」の製造・活用

特徴

「培地の開発･製造･販売」を
ワンストップで対応
国内最大の
培地メーカー

©2025 All rights reserved., KOHJIN BIO.

当社の事業領域である再生医療市場は 2030年には国内で5,300億円※1、グローバルで7.5兆円※2規模へ急拡大が見込まれる成長市場です

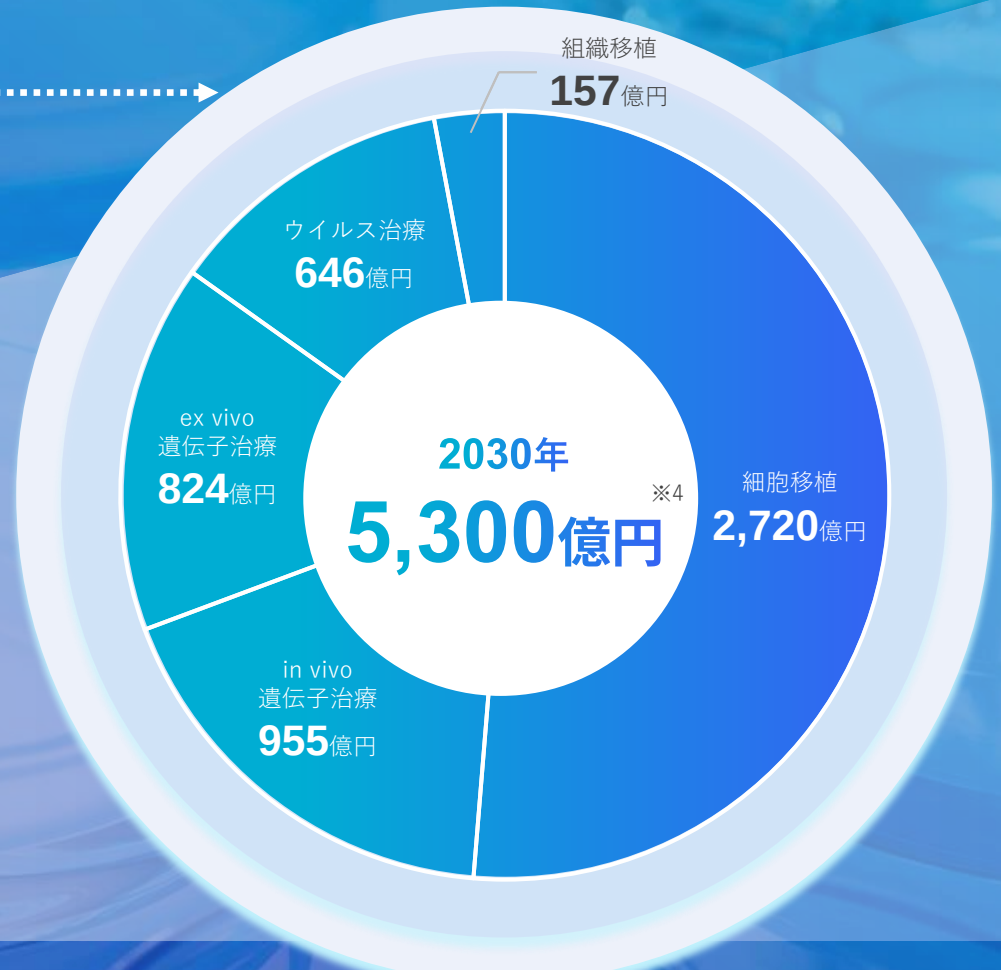
10年間で **9.3倍** に市場成長見込み

2020年
570億円※3

技術革新
低コストで安定的な細胞の供給を可能とする自動培養装置の開発とAIの活用

高齢化需要
2030年の日本人口に占める高齢者割合
予測 31.8%※5

臨床試験の増加
新たな治療法の開発が進展、再生医療に関連する臨床試験数が増加



※1・※2 ・※3・※4）出典：Arthur D. Little Japan『国内外の開発動向分析・市場規模予測 海外政府の投資動向について』（2020年9月）
※5）出典：国立社会保障・人口問題研究所『日本の将来推計人口（令和5年推計）報告書』

悪化抑制にとどまる従来医療に対して、コージンバイオは組織の根本再生を実現する再生医療の実現に挑戦

超高齢化社会で広がる慢性疾患



再生医療で治療が期待される
がん・心疾患の死因率

38.9%[※1]

令和5年度（2023年度）

日本では65歳以上が人口の29.3%に達し、心不全やがんなど「組織そのものが傷む」疾患が急増する中、再生医療はこれらの疾患の有効な治療法として期待されている

ドナー不足・免疫拒絶の限界



臓器移植希望者に対する
年間移植実施率

7.8%[※2]

令和5年度（2023年度）

2024年3月末時点での移植希望登録者数は18,397名に対して、2023年度における移植実施数は1,434件。拒絶反応を抑える免疫抑制剤の長期投与も負担

日本の再生医療を世界へ



iPS細胞
論文数・特許数ともに

世界第2位[※3]

令和5年（2023年）

医薬品や医療機器で後発になりがちな日本が、世界をリードできる可能性のある分野であり、国家プロジェクトとしても注力されている

※1）出典：厚生労働省『令和５年(2023) 人口動態統計月報年計(概数）の概況』より、総死亡数1,575,936名に対する悪性新物質(腫瘍)の死亡者数382,492名と心疾患(高血圧性を除く)の死亡者数231,056名の合計値の割合から算出
※2）出典：厚生労働省『臓器移植の実施状況等に関する報告書（2024年6月11日）』より、令和6年3月31日時点での臓器移植希望登録者数18,397名に対して、令和5年度における移植実施数1,434件から割合を算出
※３）出典：文部科学省『第1回再生・細胞医療・遺伝子治療研究の在り方に係る検討会資料3 （2021年3月5日）』より引用
※5）出典：総務省『人口推計（2024年（令和6年）10月1日現在）』より数値引用

©2025 All rights reserved., KOHJIN BIO.

細胞の培養や加工に、培地は必要不可欠な製品であり、市場成長に比例して需要が増加
足元で大学等の研究機関と取り組むバイオ創薬の開発に成功すれば、更なる飛躍を見込む



市場 細胞の培養や加工に培地は**必要不可欠な製品**

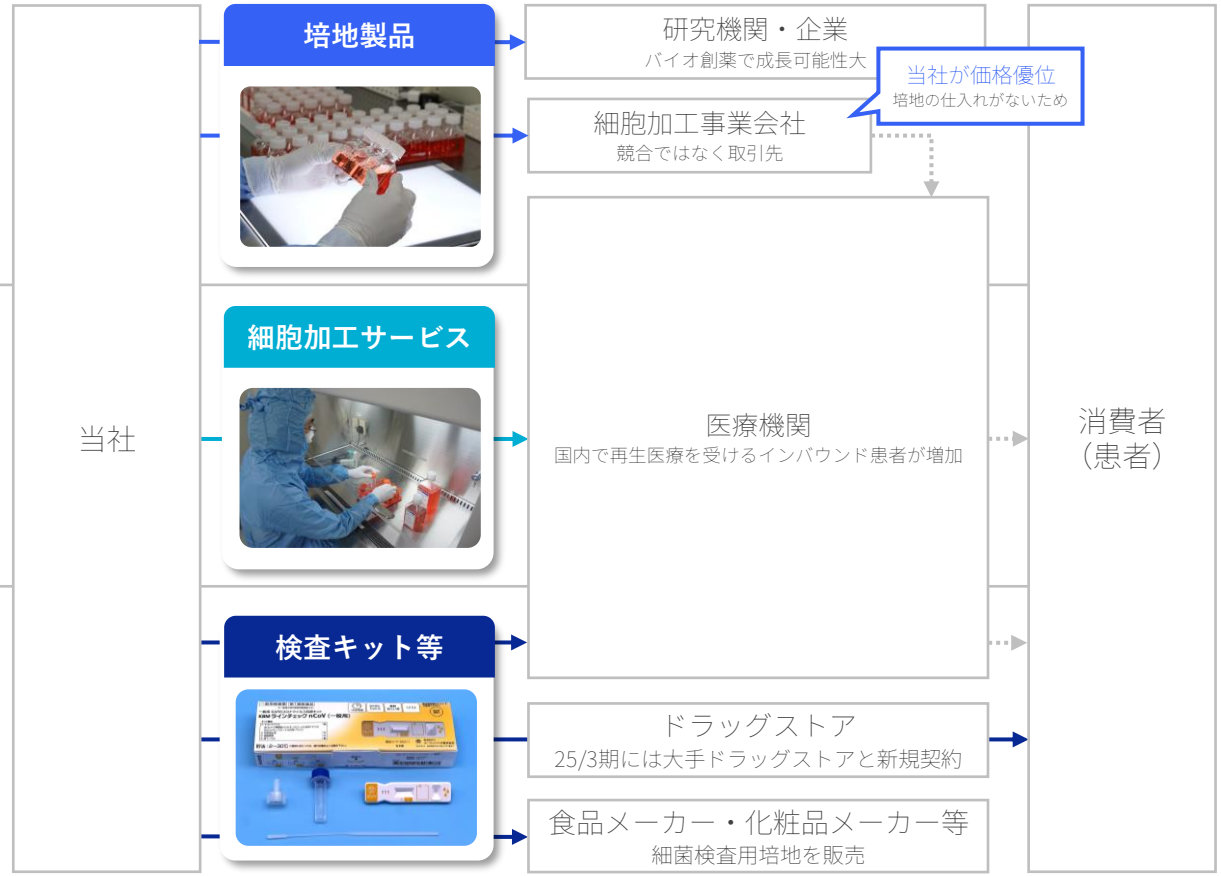
当社 細胞培養用培地の**開発・製造**技術の**国内トップランナー**

©2025 All rights reserved., KOHJIN BIO.

当社の事業は医療機関や法人を中心とした顧客層に対する細胞培養用培地の開発・製造・販売
培地を供給するプレイヤーは少なく、当社は安定した事業基盤を活用し更なるシェア拡大を目指す

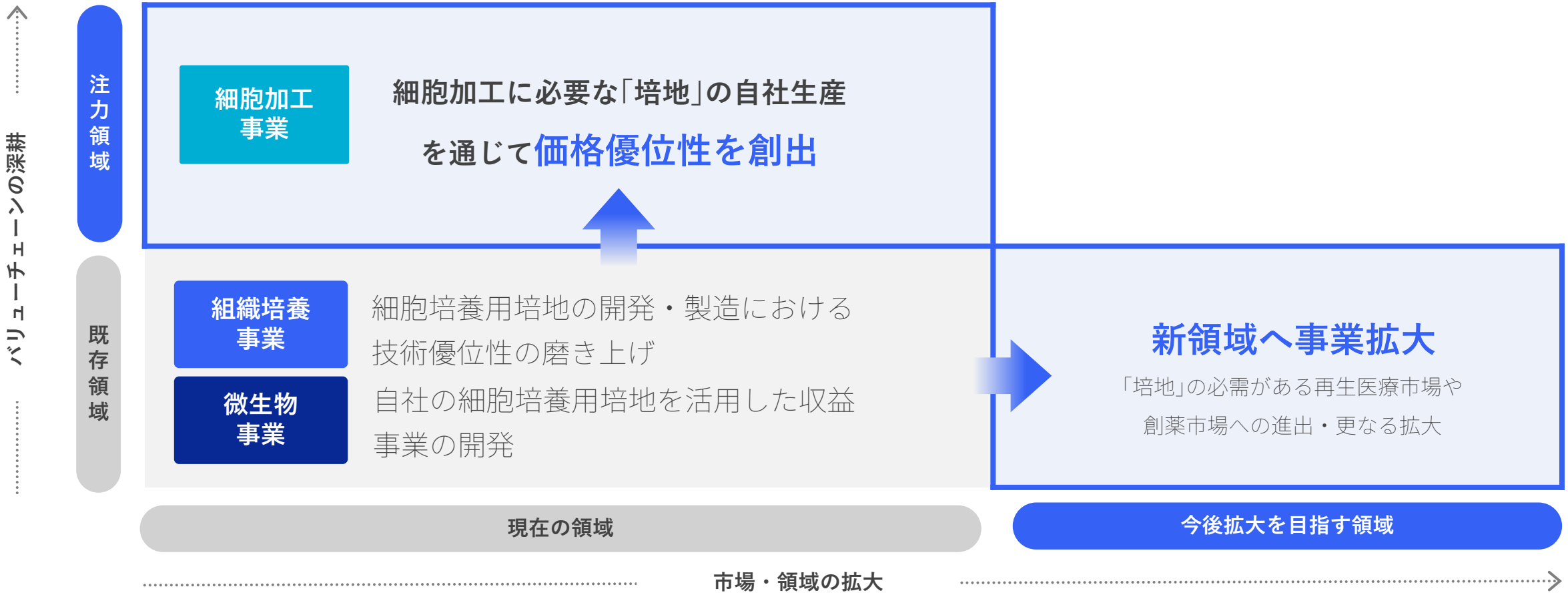
事業セグメント		事業概要
再生医療	組織培養事業	**細胞培養用培地の製造・販売** 再生医療やバイオ創薬の研究機関や 細胞加工の受託事業会社に対する培地の販売
再生医療	細胞加工事業	**細胞加工の受託** 主に免疫療法や幹細胞治療を提供する医療機関 から細胞培養を通じた特定化合物製造を受託
その他	微生物事業	**細菌検査キットの販売** 新型コロナウイルスやインフルエンザなどを はじめとする細菌検査キットの製造・販売

主要な顧客とバリューチェーン



©2025 All rights reserved., KOHJIN BIO.

細胞培養用培地の開発・製造技術を活かし、川下領域に当たる細胞加工事業の価格優位性の創出と、水平拡大による事業多角化を実現する



©2025 All rights reserved., KOHJIN BIO.

2025年3月期は、売上高・営業利益・経常利益・当期純利益いずれも業績予想を達成
再生医療市場拡大に伴う国内外の培地需要の拡大や感染症の流行により検査キットの販売が加速

売上高（過去最高）	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
5,206百万円	991百万円	1,065百万円	794百万円
YoY +9.1%	YoY +66.1%	YoY +67.6%	YoY +106.4%

セグメント別業績

組織培養事業	細胞加工事業	微生物事業
2,268百万円	1,155百万円	1,781百万円
YoY +19.1%	YoY - 4.5%	YoY +7.6%

©2025 All rights reserved., KOHJIN BIO.

再生医療市場の成長に伴う培地需要の拡大継続が見込まれる市況感
2026年3月期は細胞加工事業の再加速により、更なる増収・増益を目指す

2026年3月期の業績予想

単位：百万円		2025年3月期（実績）	2026年3月期（業績予想）	前期比
売上高		5,206	5,679	+9.1%
	組織培養事業	2,268	2,461	+8.5%
注力	細胞加工事業	1,155	1,483	+28.4%
	微生物事業	1,781	1,734	-2.6%
営業利益		991	1,065	+7.5%
	組織培養事業	765	803	+5.0%
注力	細胞加工事業	313	541	+73.0%
	微生物事業	441	258	-41.3%
当期純利益		794	822	+3.5%

各セグメントの2026年3月期の見込み

組織培養事業

再生医療市場拡大により
堅調に売上増加見込み

細胞加工事業

新加工施設稼働により、
売上増加見込み

微生物事業

例年並みの需要想定し、
保守的な売上見込み

©2025 All rights reserved., KOHJIN BIO.

第24回日本再生医療学会総会へ出展し、再生医療領域のトップランナーらに対する当社製品のPRを実施

本学会の概要

学会名	第24回 日本再生医療学会 総会
日程	2025年3月20日(木)~22日(土)
場所	パシフィコ横浜ノース
来場者数	3,700名





本学会における主な再生医療に関する演題テーマ



ハイライト

再生医療が「未来の医療」から
「現実の医療・産業」へと進化

©2025 All rights reserved., KOHJIN BIO.

2025年3月より、動物実験の代替のための製品「イヌ細胞シリーズ」3製品を発売開始

医薬品
化粧品の
製造現場

従来

動物を用いた実験

医薬品や農薬・化粧品の有効性・安全性（毒性）の検証のために、動物が利用されてきた

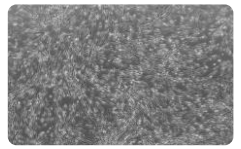


今後

「細胞」を活用し、動物実験を代替する

2025年3月 当社より「イヌ細胞シリーズ」を上市

株式会社レイクウッズガーデン・日本大学 枝村一弥教授と連携し、これまで廃棄されていた、犬の出産後に排出される胎盤に付着する臍帯や羊膜に「幹細胞」が多く含まれていることに注目し、動物実験の代替製品として開発。細胞の作製のために犬を傷つけることが一切ないため、アニマル・ウェルフェアにも配慮した形で研究に活用可能。



イヌ羊膜由来間葉系幹細胞

国際情勢

動物実験を代替する細胞需要が高まり、世界44カ国以上で化粧品の動物実験を禁止

化粧品指令（第７次改正）

化粧品に関して、2009年よりEU域内における動物実験の禁止と2013年より域外において動物実験した製品や同原料を配合した製品の販売禁止

食品医薬法（改正案）

2023年6月27日に食品医薬法の改正案が成立し、化粧品の動物実験と動物実験のデータを使った製品の販売が禁止

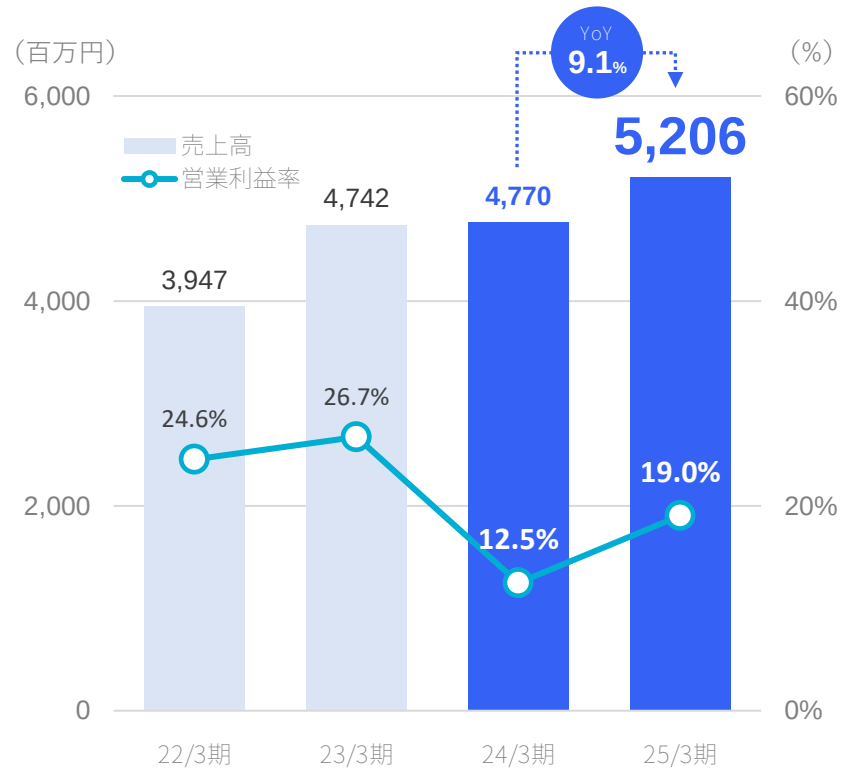
©2025 All rights reserved., KOHJIN BIO.

02 2025年3月期 決算概況

©2025 All rights reserved., KOHJIN BIO.

売上高は2024年3月期から+436百万円の増収を実現し、過去最高となる5,206百万円に着地
売上・利益いずれの指標についても業績予想を達成

売上高と営業利益率の推移



単位：百万円	2024年3月期（実績）	2025年3月期（業績予想）	2025年3月期（実績）	前期比	業績予想比
売上高	4,770	4,852	5,206	+9.1%	+7.3%
売上総利益	1,881	-	2,366	+25.8%	-
売上総利益率	39.4%	-	45.4%	+6.0pt	-
営業利益	596	857	991	+66.1%	+15.6%
営業利益率	12.5%	17.7%	19.0%	+6.5pt	+1.3pt
経常利益	635	876	1,065	67.6%	+21.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	384	629	794	+106.4%	+26.2%

©2025 All rights reserved., KOHJIN BIO.

再生医療市場の拡大と感染症の流行により、組織培養事業と微生物事業は業績向上
細胞加工事業は2025年3月期に体制整備を完了しており来期の加速を目指す

組織培養事業

事業状況 ○

国内で再生医療を受診する
インバウンド患者の増加と
中国市場での販売好調

売上高	2,268百万円	達成率：112.4%
セグメント利益	765百万円	達成率：126.4%

細胞加工事業

事業状況 △

製品原材料見直しや
施設稼働逼迫で機会損失が
発生するも現在は改善済み

売上高	1,155百万円	達成率：83.0%
セグメント利益	313百万円	達成率：60.4%

微生物事業

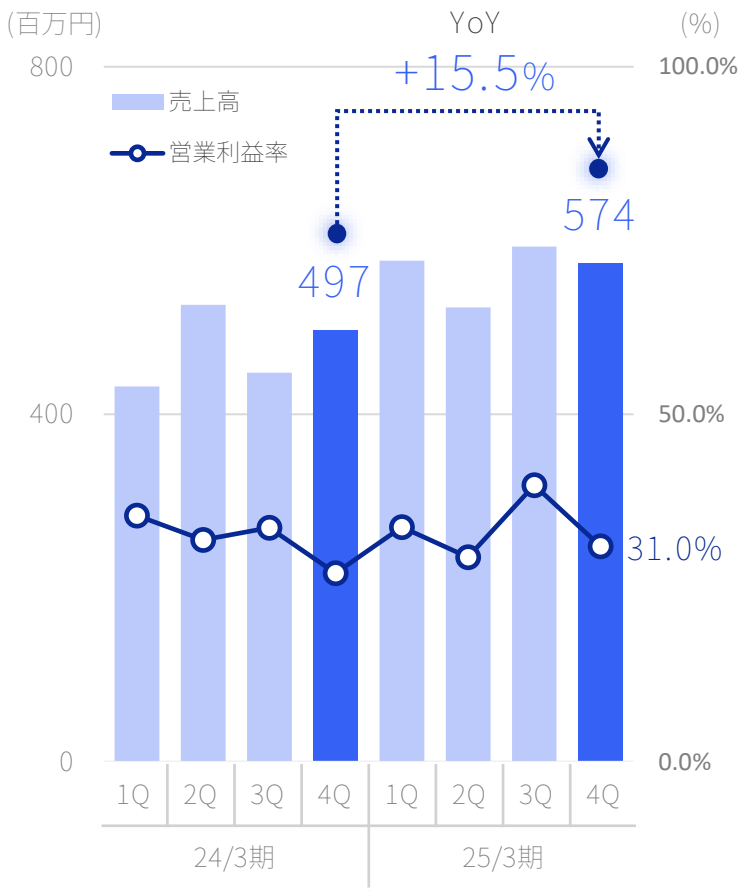
事業状況 ○

インフルエンザや
Covid-19の感染拡大による
検査キット需要増加

売上高	1,781百万円	達成率：123.5%
セグメント利益	441百万円	達成率：253.1%

©2025 All rights reserved., KOHJIN BIO.

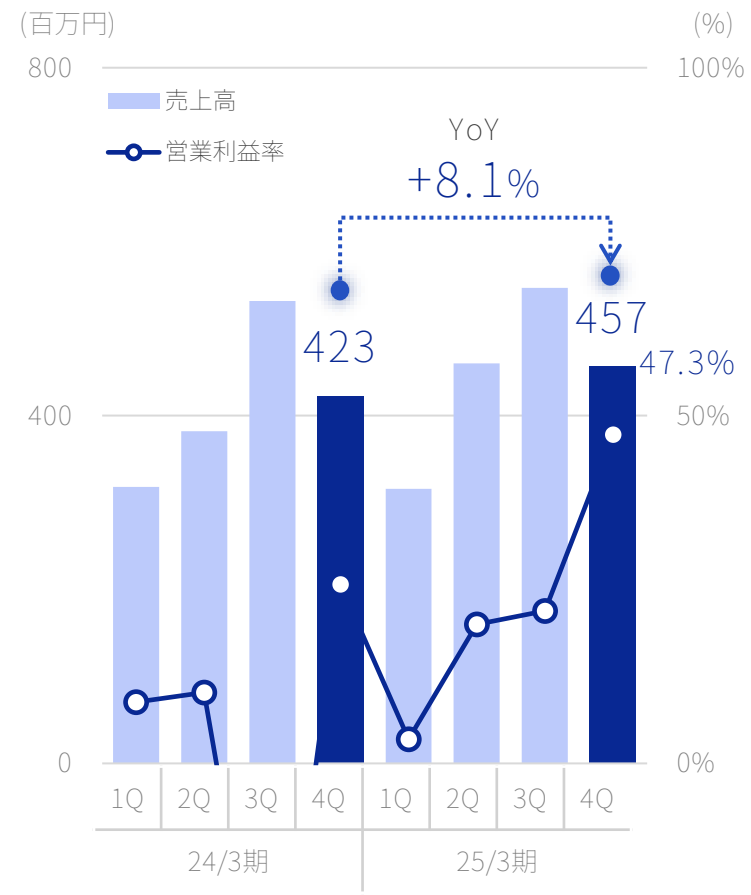
組織培養事業



細胞加工事業



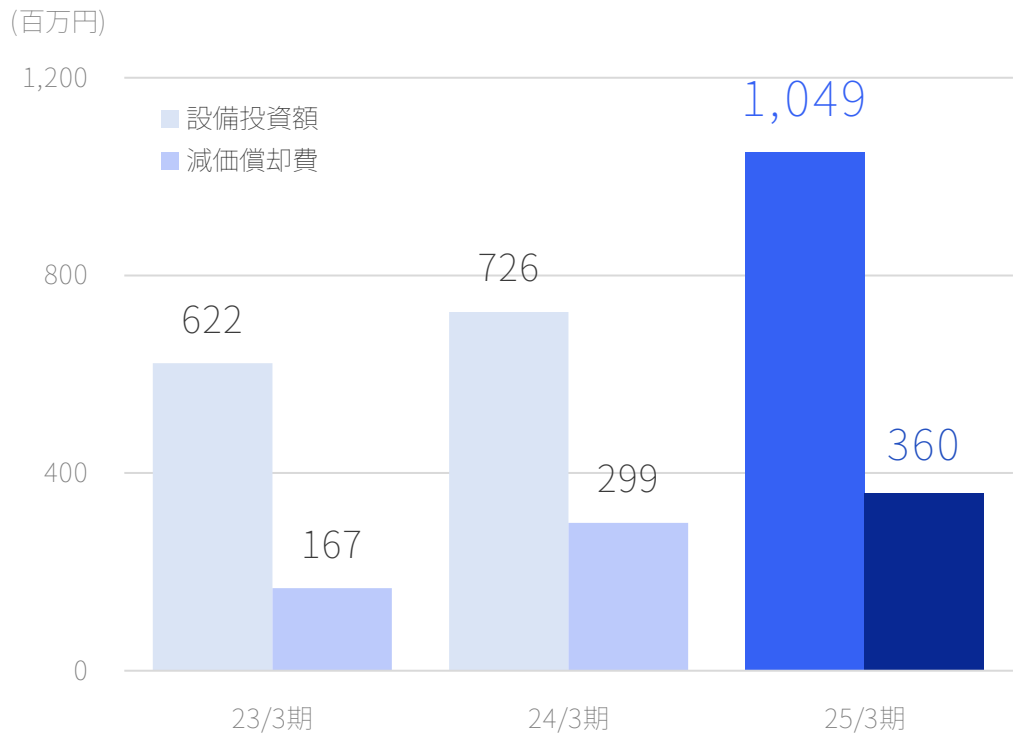
微生物事業



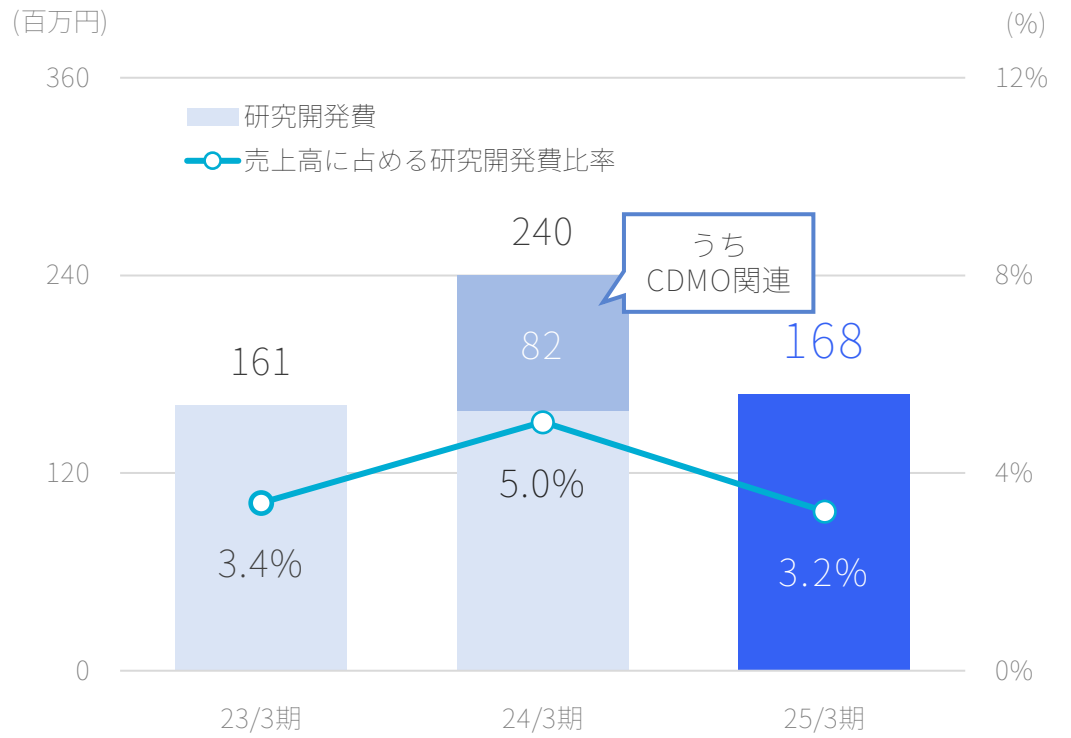
©2025 All rights reserved., KOHJIN BIO.

需要拡大を見据え新倉庫棟の建設や、研究用機器など設備投資を進める。
研究開発投資については、常設研究部署において大学や研究機関等との共同研究を進める。

設備投資額および減価償却費の推移



研究開発費および売上高に占める研究開発費率の推移



©2025 All rights reserved., KOHJIN BIO.

上場による資金調達で純資産と流動資産増加。調達資金を固定資産へ投資し将来CFの最大化を図る。

貸借対照表

単位：百万円	24.3期末	25.3期末 実績	25.3期末 増減
流動資産	3,409	**5,066**	1,657
現預金	1,726	**3,149**	1,422
営業債権	943	**986**	43
在庫	683	**880**	197
固定資産	3,179	**3,999**	820
有形固定資産	2,586	**3,253**	666
投資その他の資産	589	**718**	129
流動負債	2,398	**2,487**	89
営業債務	246	**209**	△ 37
短期借入金	1,500	**1,500**	0
長期（1年以内）借入金	150	**150**	0
固定負債	848	**797**	△ 51
長期借入金	525	**375**	△ 150
純資産	3,342	**5,781**	2,439
負債純資産	6,589	**9,066**	2,477

キャッシュフロー計算書

単位：百万円	24.3期	25.3期 実績	25.3期 増減
営業CF	823	915	91
投資CF	△ 577	△ 1,090	△ 513
財務CF	△ 1	1,376	1,377
CF	264	1,222	957
期末残高	1,726	2,949	1,222

©2025 All rights reserved., KOHJIN BIO.

03 業績予想

©2025 All rights reserved., KOHJIN BIO.

再生医療市場の成長に伴う培地需要の拡大継続が見込まれる市況感
細胞加工事業の再加速により、更なる増収・増益を目指す

売上高と営業利益率の業績予想



配当の業績予想

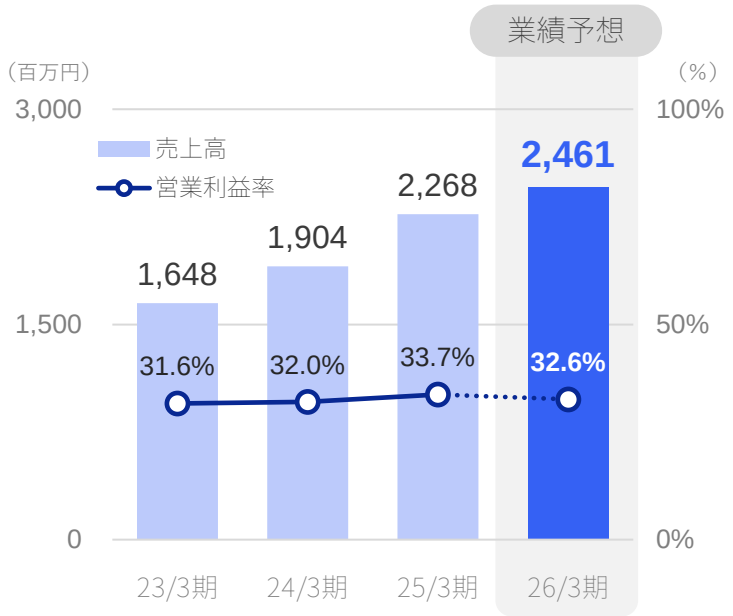
単位：円	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期（予想）
年間配当金	14	24	25
配当性向（連結）	15.1%	15.2%	15.5%

単位：百万円	2025年3月期（実績）	2026年3月期（業績予想）	前期比
売上高	5,206	5,679	+9.1%
組織培養事業	2,268	2,461	+8.5%
注力 細胞加工事業	1,155	1,483	+28.4%
微生物事業	1,781	1,734	-2.6%
営業利益	991	1,065	+7.5%
組織培養事業	765	803	+5.0%
注力 細胞加工事業	313	541	+73.0%
微生物事業	441	258	-41.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	794	822	+3.5%

©2025 All rights reserved., KOHJIN BIO.

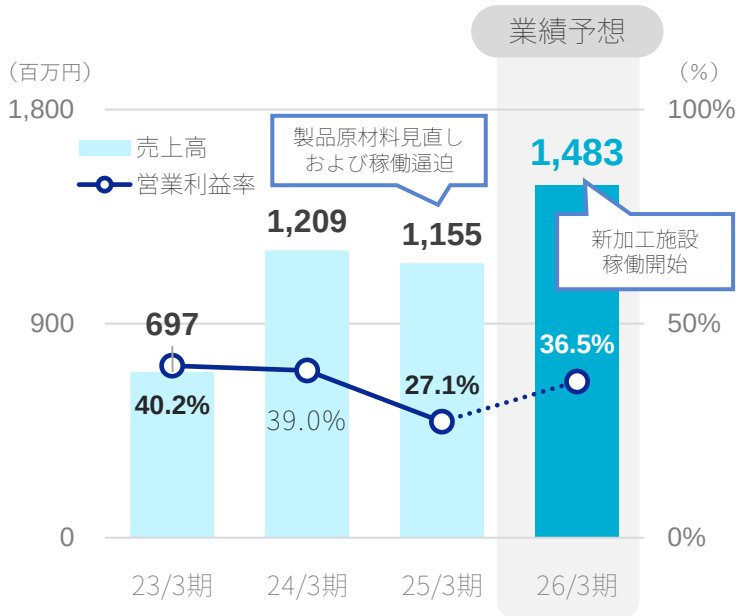
製品販売および加工受託体制の整備が完了した細胞加工事業の推進に注力
微生物事業は例年並みの需要予測、また評価損の戻入の影響が軽微になることから利益率低下想定

組織培養事業



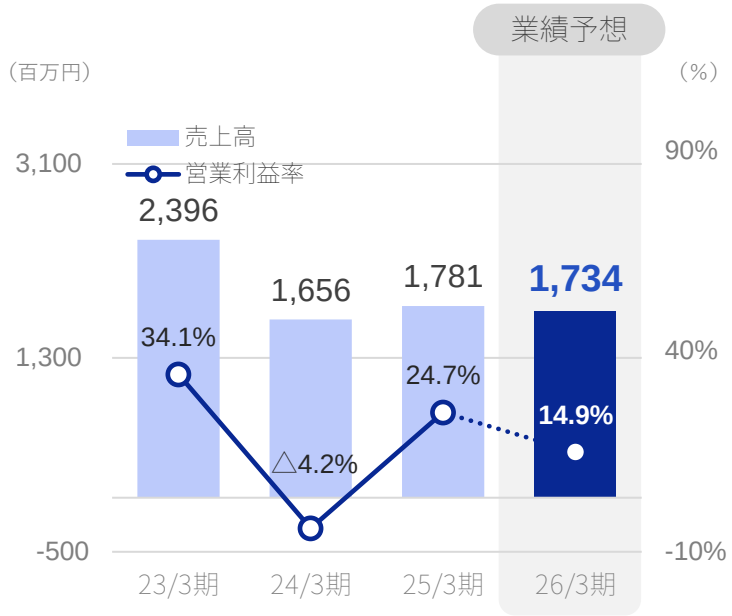
単位：百万円	2026年3月期予想	YoY
売上高	2,461	+8.5%
セグメント利益	803	+5.0%

細胞加工事業



単位：百万円	2026年3月期予想	YoY
売上高	1,483	+28.4%
セグメント利益	541	+73.0%

微生物事業

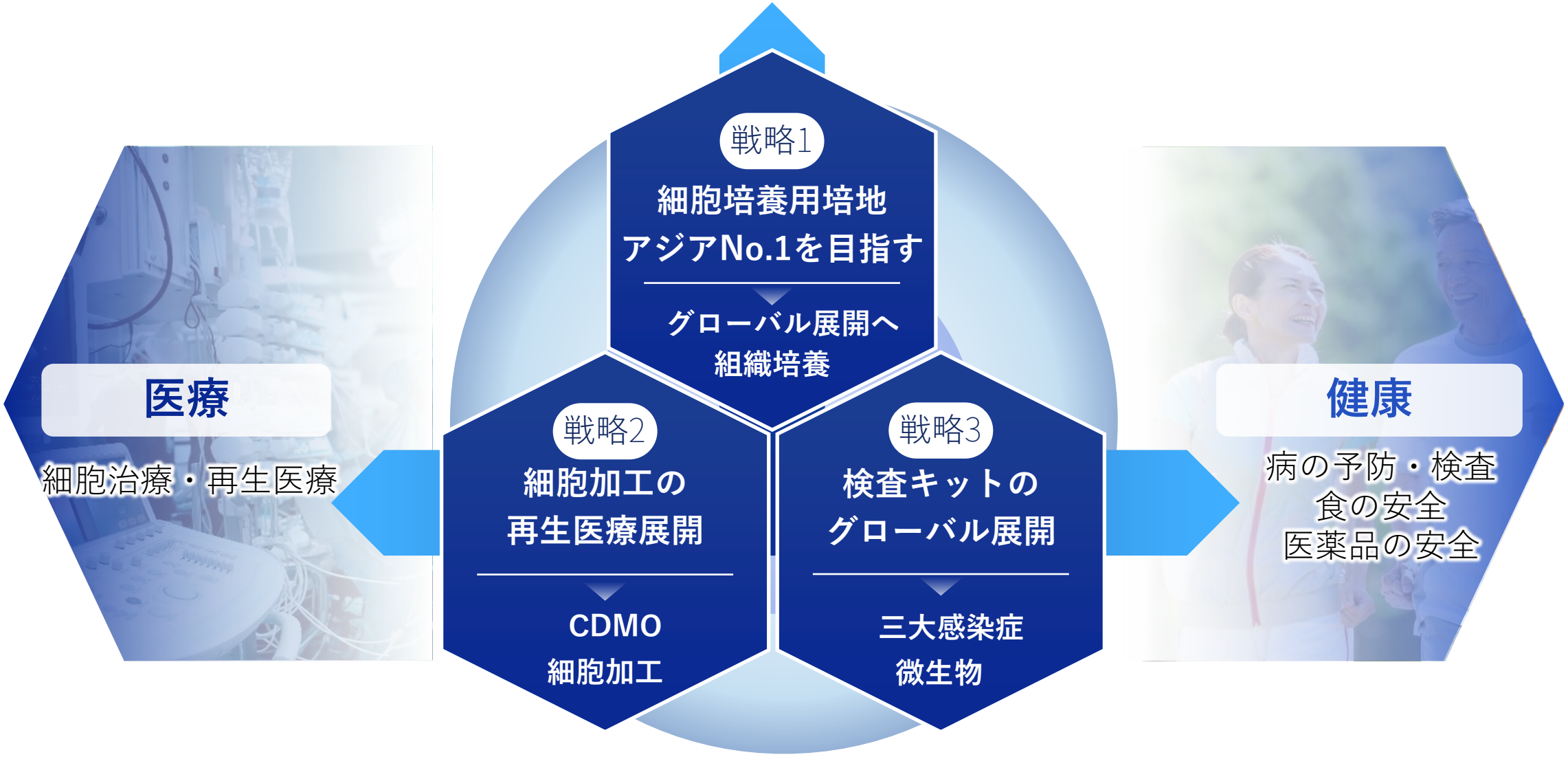


単位：百万円	2026年3月期予想	YoY
売上高	1,734	-2.6%
セグメント利益	258	-41.3%

©2025 All rights reserved., KOHJIN BIO.

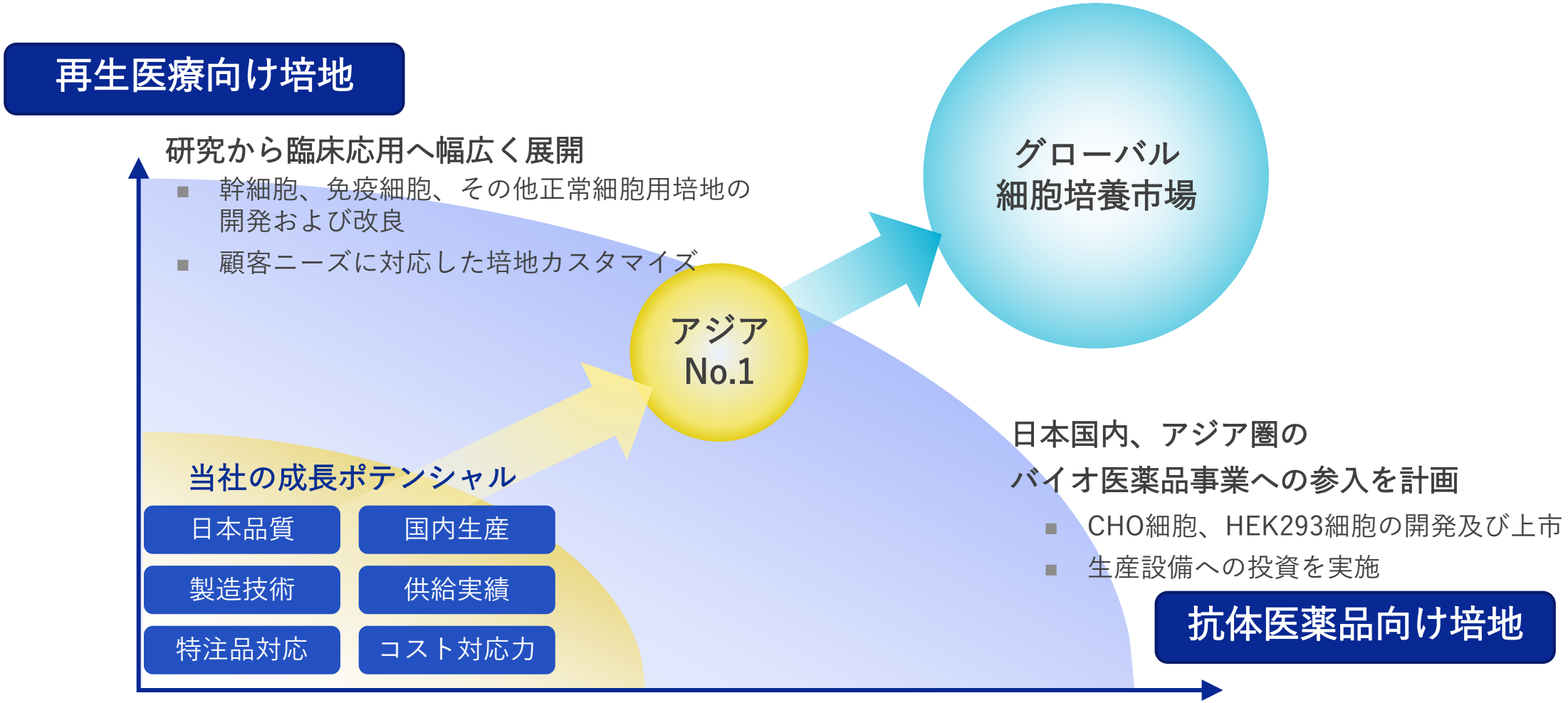
04 成長戦略

©2025 All rights reserved., KOHJIN BIO.



©2025 All rights reserved., KOHJIN BIO.

アジアを足掛かりに、グローバル産業用市場へ挑戦



◆開発から製造、販売までをワンストップで対応できる強みを活かし、種々の細胞に合致する製品の供給と、新たなニーズに沿う製品を開発することで、アジアNo.１の培地製造会社を目指す

◆アジア圏を中心に再生医療の市場が創出されており、高品質、安定供給の日本製品を流通させるために各国に販売代理店網を構築

◆再生医療や遺伝子治療、バイオ医薬品などの研究開発が活発に行われており、臨床試験数が増加している。
開発品が上市（治験から実用化）へと進むことによって、グローバルでの市場拡大が続くため、細胞培養用培地の消費量も増加しており、それぞれの需要に応じる製品を供給していく

グローバル市場をターゲットとした製品開発

◆グローバル市場にてニーズの高まっているバイオ医薬品等の製造に使用される培地を中心に開発を実施。

◆販売中である幹細胞、免疫細胞培養用の培地、および付随する製品群も市場のニーズに沿った改良を加えて行く。



動物エクソソーム生産用培地
2024年7月上市

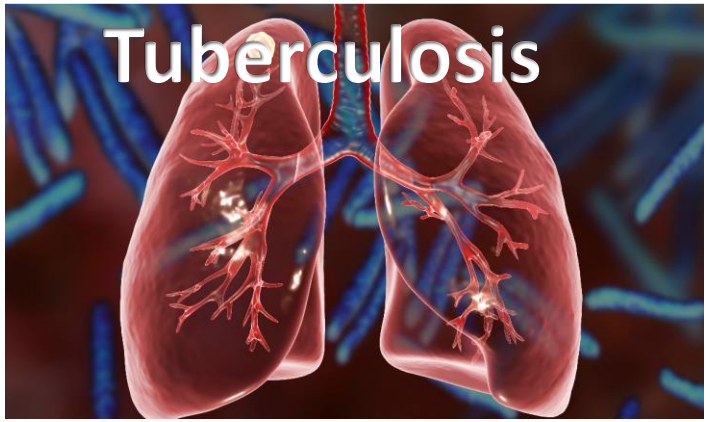


ワクチン生産用培地
2024年11月上市

地球規模で問題視される感染症の撲滅に向けた製品開発に加え、希少疾患を検出可能なキット開発も実施



感染症の医療用抗原検査キットの開発



結核検査用培地の開発

出所）公益社団法人日本WHO協会



肺胞蛋白症（希少疾患）検出キット（2024年11月上市）



薬剤耐性菌検出キット（2024年12月上市）

抗原検査キット（イムノクロマト）

設備や機器、電源を必要とせず簡易な操作でありながら、短時間で検査結果が得られることから、アフリカや東南アジアなど途上国への展開が期待される

◆現在実施している特定細胞加工物に加え、再生医療等製品の製造受託に参入することで、この両輪を回し、研究開発から産業化まで対応が可能な高品質、高水準の細胞加工受託業者の地位を確立

◆細胞加工事業のニーズに応じて特定細胞加工物製造用CPC拡大（広島CPC開設、2024年7月製造許可取得）

◆再生医療等製品の臨床試験用細胞の製造受託

広島に開設したCPCの内部

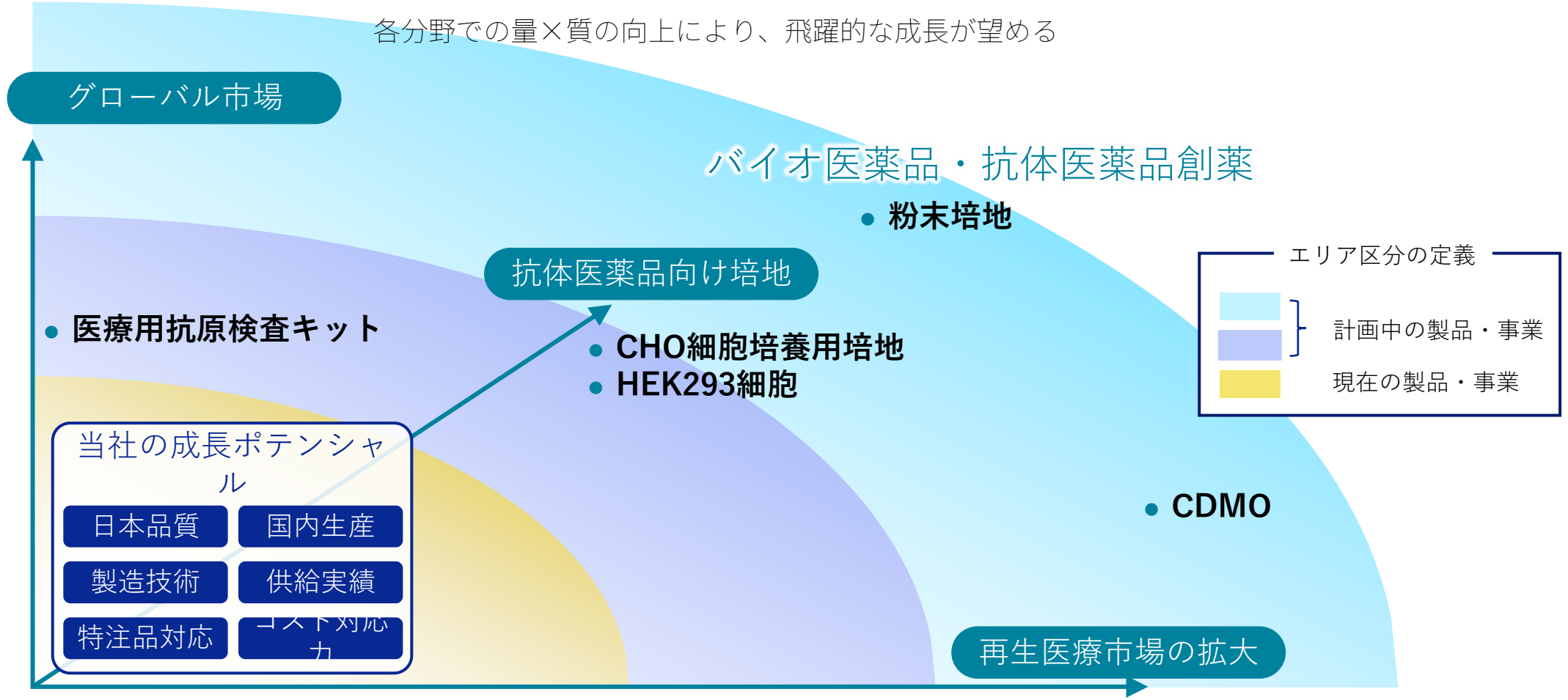






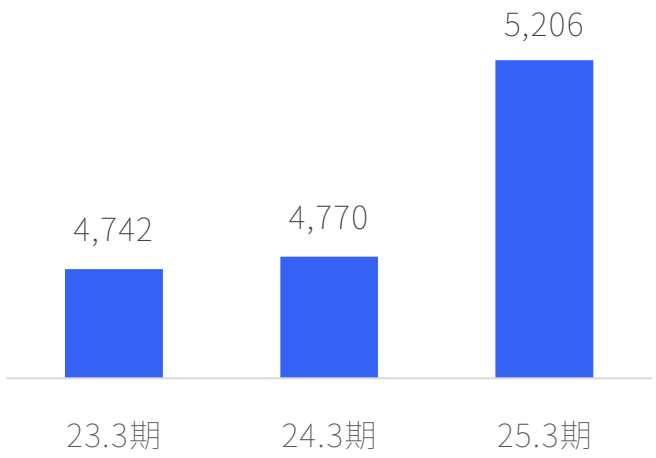
研究開発用途から、臨床用途へ

- 生産用の大ロット市場
- 細胞加工

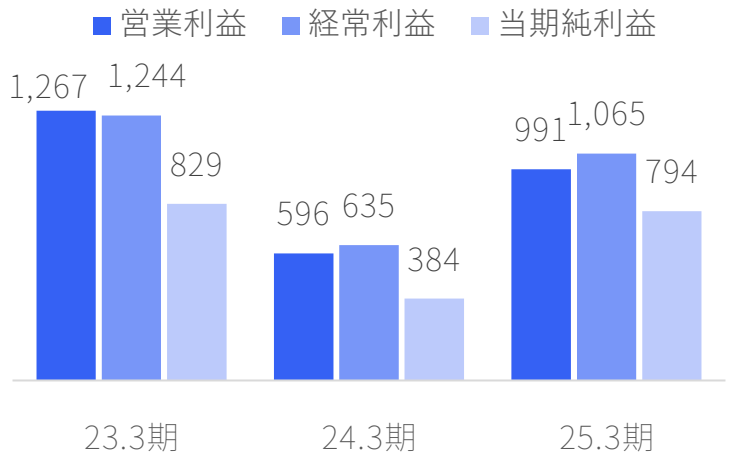


©2025 All rights reserved., KOHJIN BIO.

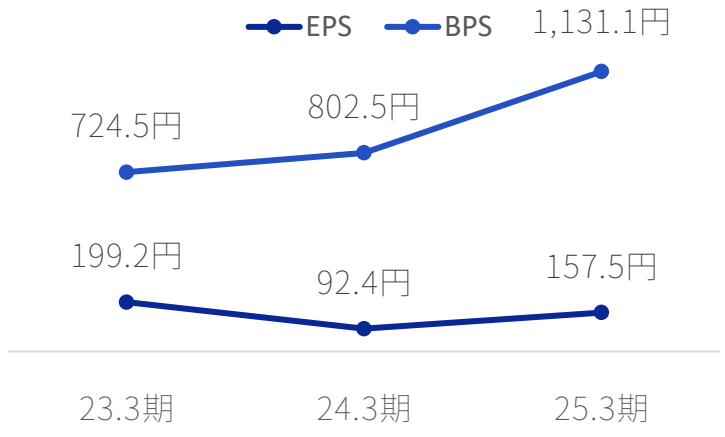
売上高（百万円）



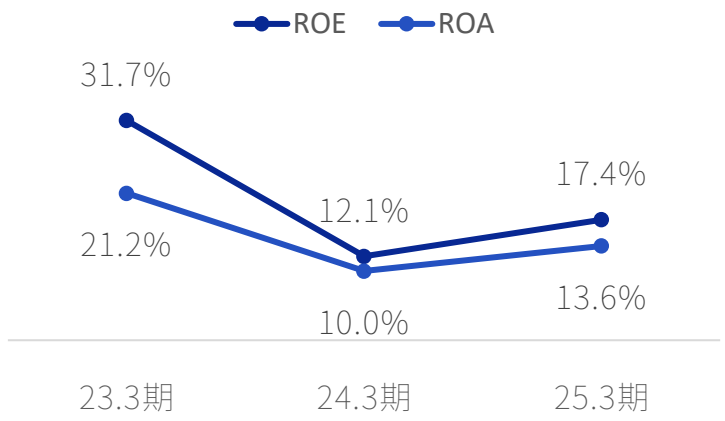
利 益（百万円）



EPS　BPS（円）

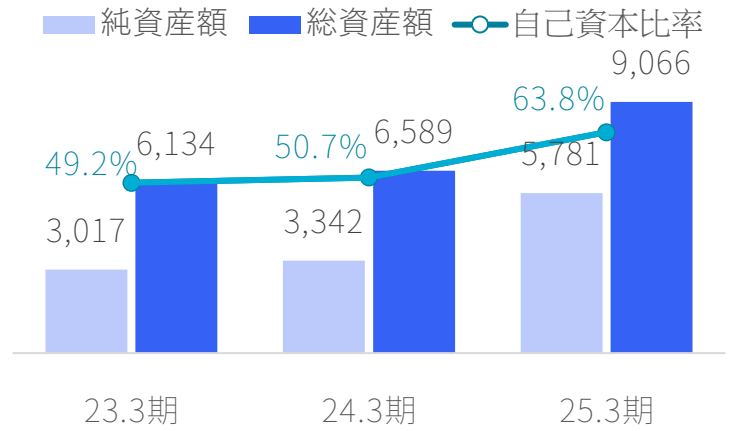


ROE　ROA（%）

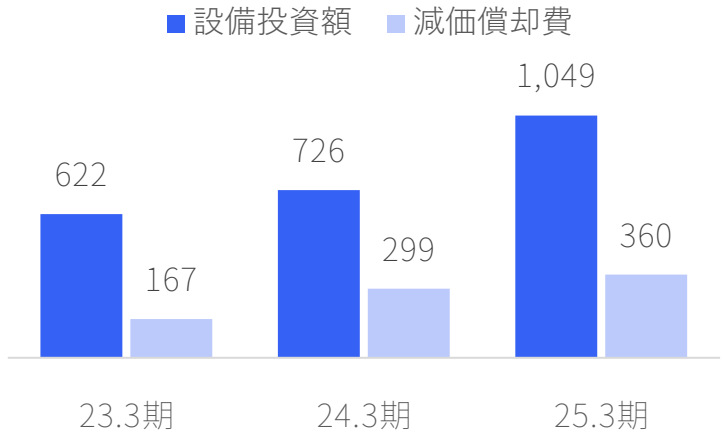


＊ROE＝当期純利益÷期中平均自己資本
＊ROA＝経常利益÷期中平均総資産

純資産額、総資産額、自己資本比率（百万円、%）



設備投資額、減価償却費（百万円）



©2025 All rights reserved., KOHJIN BIO.

05 Appendix

©2025 All rights reserved., KOHJIN BIO.

動物血液の販売から始まり、培地の開発・製造販売を経て、細胞加工に展開

1981年4月　動物血液・細菌検査用培地の製造、販売を目的にコージン（株）を設立

1986年4月　細胞培養用培地の製造を開始

1989年6月　コージンバイオ（株）に商号変更

1993年11月「体外診断用医薬品製造業・製造販売業」許可を取得し、
体外診断用医薬品の製造を開始

2005年2月　「化粧品製造業・製造販売業」許可を取得、化粧品の製造を開始

2009年1月　「医療機器製造業・製造販売業」許可を取得

2013年3月　エンバイオ（株）の全株式を取得し完全子会社化

2014年5月　中国上海に高金生物科技（上海）有限公司を設立

2015年7月　（株）ピルムの全株式を取得し完全子会社化
（株）ピルムにて「特定細胞加工物製造許可（施設番号FA3150006）」を取得

2018年6月　味の素（株）との合弁会社味の素コージンバイオ（株）を設立

2019年8月　連結子会社であった（株）ピルムを吸収合併

2024年4月　東京証券取引所グロース市場上場

再生医療関連のイベント

1999年　薬事法に確認申請制度導入
2001年　日本再生医療学会発足
2003年　日本でヒトES細胞樹立

2006年　マウスiPS細胞樹立
2007年　日本・米国でヒトiPS細胞樹立

2012年　山中教授ノーベル賞受賞
2014年　再生医療等の安全性の確保
等に関する法律施行

©2025 All rights reserved., KOHJIN BIO.

国内6拠点、アジア2拠点を展開

アジア

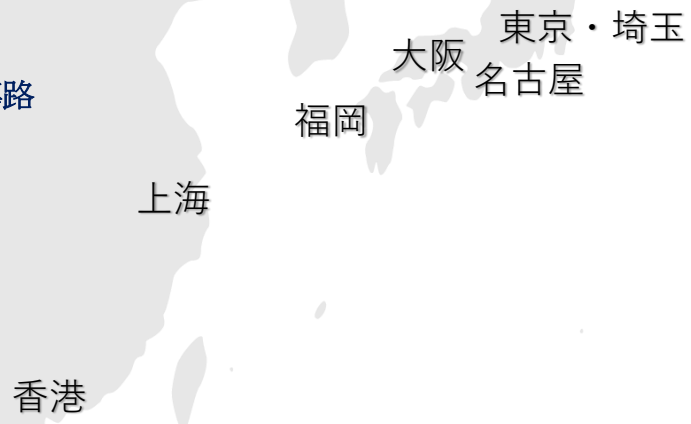


高金生物科技(上海)有限公司

中国上海市金山工業区夏寧路
818号弄聯東U谷38-39

孝仁生物控股(香港)有限公司

香港新界特湾海盛路11号
ONE MIDTOWN 13楼01室



日本

コージンバイオ株式会社（本社）
埼玉県坂戸市千代田5-1-3



東京オフィス
東京都豊島区西池袋1-11-1
メトロポリタンプラザビル11F

大阪オフィス
大阪府大阪市淀川区西中島5-11-10
第3中島ビル10F

福岡オフィス
福岡県福岡市博多区博多駅東2-4-30
いわきビル606号

名古屋オフィス
愛知県名古屋市中区伊勢山2-5-10
中埜金山ビル　801号室



味の素コージンバイオ
（コージンバイオ本社敷地内）

エンバイオ株式会社
東京都品川区東五反田2-5-2　カスク五反田806

©2025 All rights reser